

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：32711

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00492

研究課題名(和文)1933～1945年のドイツ語圏女性亡命文学研究

研究課題名(英文)Research on Women and Exile in German literature from 1933 to1945

研究代表者

田丸 理砂(Tamaru, Risa)

フェリス女学院大学・国際交流学部・教授

研究者番号：40386925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はワイマール共和国時代に活躍した女性作家たちの作品及び、彼女たちのナチ時代の文学活動の考察を課題とするが、その重点はナチ時代の活動に置かれる。

ワイマール期の作品としては、マリア・ライトナーの小説およびルポルタージュ作品を分析した。ナチ時代の文学活動についてはイルムガルト・コインの作品を取り上げ、考察と翻訳を行った。また第二次世界大戦後に執筆されたガブリエレ・テルギットの未刊行作品に関して現地で文献調査を実施し、これら女性作家たちが直面した戦後の文学活動の困難な状況を明らかにした。

なお本研究課題遂行には海外渡航が必須であったが、2019年度末以降、当初の研究予定の変更を余儀なくされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義、社会的意義はおもに次の3点である。

1. 日本ではほとんど知られていない作家マリア・ライトナーについて論文を発表し、作品およびそのジャーナリスティックな手法について日本の研究者に紹介した。2. ワイマール共和国時代の作家として知られるイルムガルト・コインの亡命時代の作品について論考を執筆するとともに、翻訳書を刊行することで日本語話者にドイツ語圏の女性亡命文学へのアクセスを可能にした。3. ガブリエレ・テルギットの未刊行作品についての研究結果をドイツ語で論考としてまとめた。ドイツの出版社発行の書籍に発表することで、広くドイツ文学研究に貢献した。

研究成果の概要(英文)：The research task dealt with the works of women writers in the Weimar Republic and, above all, their literary activity during the Nazi period. First, a novel and a work of reportage about the United States by Maria Leitners were examined as Weimar literary works. Then Irmgard Keun's works during the Nazi period were analyzed and one of them was translated into Japanese. The difficulties faced by women writers after World War II were illustrated by Gabriele Tergit's unpublished manuscript and its inadequate treatment.

In order to perform this task, several researches in Germany were necessary, but because of the pandemic, the change of the previous plan was required.

研究分野：ドイツ文学 女性文学

キーワード：ドイツ文学 女性文学 亡命研究 ジェンダー研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) これまでの研究でワイマール共和国時代の女性文学を中心に取り組んできたが、これらの作家たちの多くはワイマール共和国末期に執筆活動を開始し、その後も作家として発表を続けている。このことから政治体制の変化が彼女たちの文学活動にどのような影響を与えたかについて、さらに調査・考察する必要性を感じていた。

(2) 2014年に勤務先の特別研修制度を利用し、筆者はドイツ(受け入れ先:ベルリン、フンボルト大学)に長期滞在し、ナチ時代の女性亡命研究の現況を情報収集する機会を得た。またその際、フンボルト大学のウルリーケ・フェッダー教授に研究のサポートを受けるとともに、ドイツの亡命研究の中心的組織の一つである「亡命研究協会」のインゲ・ハンゼン=シャーベルク氏(2001~2013年研究グループ「女性と亡命」代表)にインタビューを行うなど、今後この領域で研究を続ける上で重要な専門家との関係性を築いた。

(3)(2)の成果としてジェンダー史学会の機関誌『ジェンダー史学』に「ドイツにおける『女性と亡命』研究の現在」を公表(11号、2015年)、ドイツの女性史およびジェンダー史についての雑誌『Ariadne』に女性と亡命研究についての論考を寄稿(72号、2017年)するなど、ドイツ語圏における女性亡命研究を概観し、本研究課題の準備作業を行った。

2. 研究の目的

本研究課題はジェンダーの視点からドイツ亡命文学研究への新たなアプローチを提案するものであり、ジェンダー構造と執筆活動の問い直しを目指す。具体的には以下の三点を主な目的とする。

(1) 先行研究において取り上げてきた作家のナチ時代および亡命時代における女性作家たちの執筆活動および作品に焦点を当て、この時期の文学活動をジェンダーや階層差にも目を向け、それらの要素がどのように作品に反映されているかを考察する。

(2) 先行研究で扱っていない作家については、それ以前(ワイマール共和国時代)の作品も研究対象とし、ワイマール体制からナチ政権への移行が、彼女たちの創作活動に与えた影響を探る。

(3)(1)(2)の作業を通し、女性亡命文学研究に関して総合的に紹介する著作等にまとめることで、日本のドイツ文学研究に貢献する。

3. 研究の方法

(1) ドイツ語圏における亡命および女性亡命研究についての動向の調査

上記1.(2)で言及したハンゼン=シャーベルク氏およびウルリーケ・フェッダー教授から本研究課題に関する助言を得た。またベルリンでは図書館や書店を巡り、ドイツにおける亡命研究の現況を調査した(コロナ禍前)。

(2) ドイツ語圏の図書館、アーカイブでの資料収集および文献調査

ドイツ、マールバッハのドイツ文学アーカイブとフランクフルトのドイツ国立図書館で、対象となる作家の未発表原稿や書簡を閲覧、収集を行った。2020年3月以降もフランクフルトの国立図書館での文献調査を行う準備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により断念した。

(3) インターネット等による情報収集

コロナ禍により現地調査が叶わなかったため、インターネットを使用し、女性亡命研究の現況を調査し、入手可能な書籍や論文を調達した。

(4) 上記(1)~(3)で得た情報をもとに論文を日本語およびドイツ語で執筆、公刊。

4. 研究成果

(1) ワイマール共和国時代の女性作家のナチ時代の作品を考察 「著者と併走する物語
イルムガルト・コインの『すべての国の子ども』について」

イルムガルト・コインの亡命時代の作品『すべての国の子ども(Kind aller Länder)』(1938年)

を取り上げ、「亡命時代に作家であること」について、本作およびコイン自身の言葉や他の作品から考察し、子どものパースペクティブから語られる本作の語りの特徴に注目し、亡命者と物語の係わりを探った。

反体制作家の家族が一家で亡命生活を送る本作は、コイン自身の体験と密接に関係している。本作品に見られる「子どものパースペクティブからの語り」からは、当時、実際に亡命者であった著者が、亡命作家たちを危険にさらす題材を真正面から扱えなかったこと、またユーモアをもって亡命生活の理不尽さを描くために著者がある種の工夫を用いたこと、が推察される。ドイツ国外を転々とする様子を扱ったこの作品は、時間構造の錯綜も指摘されるが、こうした混乱も含め、著者に併走する亡命を巡る物語と言えよう。

(2) ワイマール共和国時代の女性作家のナチ時代の作品紹介 イルムガルト・コイン『真夜中過ぎに』の翻訳

ドイツ語圏の女性作家による亡命時代の作品は日本ではほとんど紹介されていないが、2022年中にイルムガルト・コインの『真夜中過ぎ (Nach Mitternacht)』の翻訳の出版を予定している(左右社刊)。これは一般の人びとにもドイツの女性作家を紹介する機会であり、上梓に際しては、詳しい解説も付すことを考えている。

(3) ワイマール共和国時代の女性作家の亡命をテーマとした作品について 「友情から生まれた本 ガブリエレ・テルギット著『ニューヨークから来た天使』について / Kampf einer Literatin für den „anonymen Heroismus“. Zu Gabriele Tergits „Der Engel aus New York“.

ワイマール共和国時代、ジャーナリスト、作家として活躍していたガブリエレ・テルギットはナチ政権の誕生後、イスラエルを経てイギリスに移住し、第二次世界大戦後、長年にわたりドイツ語圏外在住ドイツ語作家 PEN の秘書を務めていた。テルギットは1967年、ドイツからの亡命者に尽力したアメリカの人びとについての散文作品を完成させるが、彼女の再三にわたる出版社への働きかけもむなしく、結局、本作は未刊行に終わる。本作品の執筆の経緯および未刊行に至った背景について、著者によるタイプ原稿や書簡などの調査を行い、かつての亡命作家たちが戦後に経験した困難な状況を明らかにした。なお本テーマについてのドイツ語の論考はガブリエレ・テルギットの論集 „Text + Kritik 228. Zeitschrift für Literatur. Gabriele Tergit“に、他の研究者によるテルギットについての論文とともに掲載された。また日本語版では日本で理解されるために必要な情報を補足するとともに、テルギットがその際用いた手法についても言及した。

(4) ワイマール共和国時代の新たな女性作家の作品について考察 「マリア・ライトナーが描いたアメリカ マリア・ライトナー著『女ひとり世界を旅する』『ホテル・アメリカ』について

ルポルタージュ作品『女ひとり世界を旅する (Eine Frau reist durch die Welt)』(1932年)では、著者マリア・ライトナーは、さまざまな仕事に就きながら合衆国を旅行するという潜入取材の手法を用い、労働者の視点からアメリカ社会をとらえようと試みた。またライトナーはアメリカ旅行に基づいて小説『ホテル・アメリカ (Hotel Amerika)』(1930年)を執筆している。当時、アメリカを舞台とした数々の女性による旅行記が発表されているが、ライトナーのルポルタージュや小説は、ヨーロッパからの貧しい移民の生活が描かれているという点で、その他のものと異なっている。ライトナーの作品においてアメリカは、ヨーロッパの人びとにとっての生きるためのオルタナティブとして存在する。

なおマリア・ライトナーについてはワイマール共和国時代の作品だけでなく、亡命時代の作家活動についても調査する予定であったが、コロナ禍により、実施できなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 田丸理砂	4. 巻 23
2. 論文標題 マリア・ライトナーが描いたアメリカ マリア・ライトナー著『女ひとり世界を旅する』『ホテル・アメリカ』について Amerika hinter den Kulissen. Zu Maria Leitners "Eine Frau reist durch die Welt" und "Hotel Amerika".	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フェリス女学院大学国際交流学部紀要	6. 最初と最後の頁 223-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田丸理砂	4. 巻 22号
2. 論文標題 友情から生まれた本 ガブリエレ・テルギット『ニューヨークから来た天使』について Ein Buch aus Freundschaft. Zu Gabriele Tergits "Der Engel aus New York".	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際交流研究	6. 最初と最後の頁 89-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田丸理砂	4. 巻 21
2. 論文標題 著者と併走する物語 イルムガルト・コインの『すべての国の子ども』について Eine Geschichte begleitet - Zu Irmgard Keuns "Kind aller Laender".	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際交流研究	6. 最初と最後の頁 113-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Risa Tamaru	4. 発行年 2020年
2. 出版社 edition text + kritik	5. 総ページ数 9
3. 書名 Gabriele Tergit	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------